真珠湾と二人の軍人

1941年12月7日、真珠湾攻撃を指揮した日本軍の中佐をご存知でしょうか。彼の名前は淵田美津雄氏。彼が「トラ、トラ、トラ（ワレ奇襲ニ成功セリ）」という暗号を打電したエピソードはとても有名です。一方、このニュースに激怒し、日本人に復讐するために自ら米国陸空軍に入隊した、ひとりのアメリカ人がいました。彼の名前はジェイコブ・デシェーザー氏。彼は爆撃機のエンジントラブルが原因で、日本軍の捕虜となってしまいました。この愚かしい戦争がきっかけで、国籍も価値観も異なる二人の軍人の人生と永遠が180度変えられることを、まことの神以外、誰が予測できたでしょう。

出会いと回心

終戦後のある日、淵田氏は所用があって渋谷駅に下車しました。駅前に出ると、ひとりのアメリカ人が道行く人々に「かつて私は日本の捕虜でした」と題したパンフレットを配っていました。そこにはデシェーザー氏の手記が記されてあったのです。憎しみを抱えたまま人生を終えるわけにはいかない、そう考えた彼は、日本人看守が差し入れた聖書を三週間読みふけりました。そして、まことの神

の御前に罪人である自分が、今まさにこの神と戦争状態にあり、神と和解しなければならないと気づかされたのです。彼は、十字架で自分のために死なれ、復活されたイエス・キリストを自分の神、主として信じる決心をしました。その後、幸いにも釈放された彼は、本国で宣教師になる訓練を受けました。そして、憎むべき敵国であったこの日本に、福音宣教のため家族と来日していたのです。

手記の内容は、複雑な心境に陥っていた淵田氏の心を捉えて離しませんでした。敵国に壊滅的なダメージを与え一躍英雄になった彼でしたが、終戦後、日本を敗戦と混乱に導いた軍首脳への視線が急に冷たくなったためです。「自分のしたことは善なのか、それとも悪なのか。敵を愛するとはどういうことなのか。人間を根底から変えてしまうイエスとは一体何者なのか、ひとつ、私も聖書を読んでみよう」そう考えた彼は、早速聖書を買い求めました。そして、創造主なるまことの神のご存在を知った彼もまた、前述のデシェーザー氏と同じように、イエス・キリストを自分の神、主として信じる決心をしたのです。

永遠に変わらない御方

クリスチャンになった淵田氏は、かつての戦友たちから裏切り者扱いされました。元特攻隊員が刀を持って彼の家に押し入ることもありましたが、彼の信仰の姿勢は一向に変わりませんでした。淵田氏はこう証言しています。「時代が変われば善悪の基準も変わり、私個人の評価も大きく逆転しました。この世の正義は、時と場合によって悪ともなります。そのような世からの評価は、もう私にとって大切ではありません。最も大切なことは、永遠に変わることのない、権威者なるまことの神がご存在されることです。その権威の下でしか、私たち人間は一貫した生き方ができません。イエス・キリストの福音を信じたこの私を、だれが止められるでしょう。」彼もまた、憎むべき敵国であったアメリカにも渡り、「パール・ハーバーのフチダ」としてキリストを証しする者となりました。

イエス・キリストの福音

一枚のパンフレットが淵田氏の救いのきっかけになったように、この一枚のチラシがあなたの救いのきっかけとなることを心から願って止みません。私たち人

間はみな、聖く正しいまことの神から遠く離れた罪人です。人の心は憎しみや妬み、裏切りや傲慢など、苦々しい罪で満ちています。悲惨な戦争は、この罪の産物のひとつに過ぎません。あなたは、あなたに命を与え、今日まで生かし続けてくださったまことの神をあがめ、感謝して生きておられるでしょうか。むしろ、人間の手でこしらえた偶像を神として拝み、それらに仕えて生きてきたのではないでしょうか。偶像崇拝は、まことの神への紛れもない反逆、恐ろしい罪です。神は人間の罪を必ず裁かれる御方です。聖書は**「人間には一度死ぬことと、死後にさばきを受けることが定まっている」**（ヘブル 9：27）と警告しています。死後の裁きは、火と硫黄の燃える恐ろしい永遠の地獄です。一度地獄に投げ込まれた人間は、決してそこから出られません。しかし、人間を愛される神は、ひとり子のイエス・キリストを救い主としてこの世に遣わされました。そして、罪のないキリストに全人類のすべての罪を負わせ、私たちの身代わりとして十字架上で罰してくださったのです。キリストは聖書の預言通り、死後三日目の朝に死の力を打ち破ってよみがえられました。キリストの十字架と復活は紛れもない歴史的事実です。ですから、だれでも、どんな過去をもった罪人でも、自分の罪を悔い改め、キリストを信じ受け入れるなら罪の赦しが与えられ、永遠の天国に入ることができます。

前述の二人の元軍人は、悲惨な戦争体験を通して自分の罪と向き合い、自分の生きる意味、まことの神との関係について深く考える機会を得ました。あなたと神との関係はどうでしょうか。罪の問題は解決済みでしょうか。あなたの死後の行き先はどこでしょうか。十字架で死なれよみがえられた御方、イエス・キリストだけがあなたの神、主です。どうか、イエス・キリストを心に受け入れて、罪の赦しと永遠のいのちを得てくださいますよう心からお勧めいたします。

―こういうわけで、神が私たちを通して勧めておられるのですから、私たちはキリストに代わる使節なのです。私たちはキリストに代わって願います。神と和解させていただきなさい。神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方にあって神の義となるためです。―（第二コリント 5：20、21）

▲ 淵田氏とデシェーザー氏